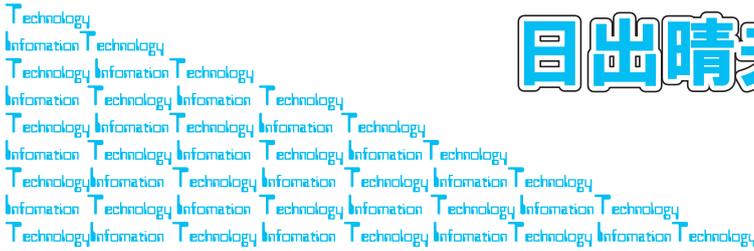


ITな話

日出晴夫の



日出 晴夫

中小企業診断士。阿南市在住

<http://www.facebook.com/haruo.hinode>

春です

春です。行楽の季節です。先日、久方ぶりに隣県の高速度路を使用しました。パークエリアに居並ぶ県外ナンバーの車列に、政府の経済対策の効果を見る思いをしたものです。

読者の皆さんがこの文章を目にするのは五月でしょうから、その頃は気候も良く、過ごし易い最良の日々となっていることでしょう。

また、他方、九州では、地震の余波は続いています。かの地域の皆さまの労苦も偲びつつ日常を送りたいとおもっています。

ITブックメーカーキング

過去、この誌面で、執筆テーマとして一貫して取り上げてきたのは「IT」ということでした。

それらのテーマに、観劇というジャンルを付けくわえたのが、平成二十三年のことでした。

若かりし頃『新劇とは新しい演劇?』であるとか、『新しい演劇が有るのなら、旧劇って何なのでしょう?』とか『そもそも、新劇って時代遅れの言葉ではないのでしょうか?』等々の論議を、正しい解答が出ることを期待した訳でもなく、繰り返し行っていたことを思い出したからです。

当時は、大阪で学生生活を送っており、田舎者の私が、一種の議論物好きな性格も相俟って、結構楽しい時間を過ごさせてもらったものです。参加していたのは『大阪勤労者演劇協会』、所謂、『労演』です。

平成二十三年に、当時の先輩が久しぶりに来県してくれました。突然の訪問でし

たが、昔話で盛り上がったものです。『大阪労演』が解散したこと等々。近時のことは、忘れることが多いものですが、昔のことはよく覚えていたものです。これも一種の老化現象かも知れません。

思えば、文芸書の類に目を通さなくなつて何年になつていたのでしよう。軽く二十年は過ぎていました。

お金とITの話題以外には無縁の生活を送っているようです。何と寂しい人生だったでしょう。

そこで具体的な行動を取りました。『徳島市民劇場』に再度、入会しました。(市民劇場は、サークル制度を取っています。個人入会は出来ません。職場の先輩のサークルに参加させてもらったということです。)

労演と市民劇場

一定の年齢層以上の方であれば、「労音」「労演」という名称に記憶がある方が多いことと思われれます。

かつて、戦前戦中を通じて、国家権力が劇団活動に介入した頃がありました。

戦後、多くの新劇団は、国の施策に対して批判的距離をおきました。文化運動の先頭にも立つてきたという歴史があるのです。これらの運動を観客層から支えてきたのが勤労者の『労演』であったのです。

実際に労働運動の別働隊の趣も呈していた頃もありました。しかしながら、時とともに、一般受けはしなくなります。そこで名称から「労」という文字を消し、「市民」という近代的な組織にしようという考え方が現れるのです。この是非は別にして、徳島では「市民劇場」という名称を取り入れているのです。

五月の例会はオバマです

次ページに五月例会のポスターを示します。何とはなく滑稽で楽しそうなイメージです。この図は、私のフェイスブックでもアップしておりますので、既知の

市民劇場、例会(観劇)実績

開催年月	タイトル	劇団・企画
2016. 3	Be My Baby〜いとしのベイビー〜	加藤健一事務所
2016. 1	真夜中の太陽	劇団民藝
2015.11	王女メディア	幹の会+リリック
2015. 9	芝浜の革財布	前進座
2015. 7	朗読劇月光の夏	劇団東演
2015. 5	十二人の怒れる男たち	俳優座劇場プロデュース
2015. 3	うかうか三十、ちよろちよ四十	人形劇団ブーク
2015. 1	をんな善哉	劇団青年座
2014.11	OH! マイママ	劇団NLT
2014. 9	女たちのジハード	劇団朋友
2014. 7	風と共に来たる	テアトル・エコー
2014. 5	「見上げてごらん夜の星を」	イツツフォーリーズ
2014. 3	片づけたい女たち	グループ・ばる
2014. 1	ロミオとジュリエット	無名塾
2013.11	はい、奥田製作所。	劇団銅鑼
2013. 9	モリー先生との火曜日	加藤健一事務所
2013. 7	ハムレット	劇団東演
2013. 5	音楽劇わが町	俳優座劇場プロデュース
2013. 3	夢千代日記	劇団前進座
2013. 1	中西和久のエノケン	京楽座
2012.11	楽園	劇団スイセイ・ミュージカル
2012. 9	怪談牡丹燈籠	人形劇団ブーク
2012. 7	東京原子核クラブ	俳優座劇場プロデュース
2012. 5	榎の木坂四姉妹	劇団俳優座
2012. 3	静かな落日 広津家三代	劇団民藝
2012. 1	フレディ	テアトル・エコー
2011.12	殿様と私	文学座
2011. 9	父と暮せば	こまつ座
2011. 7	さんしょう太夫 説経節より	劇団前進座
2011. 5	族譜	青年劇場
2011. 3	宴会泥棒	劇団NLT
2011. 1	てけれつつのば	劇団文化座
2010.11	新・裸の大將放浪記	海流座(協力・小雁倶楽部)
2010. 9	あなまどい	劇団前進座
2010. 7	流星ワゴン	劇団銅鑼

市民劇場・2016年5月例会ポスター



方もおられるかも知れませんが、そこに大先輩よりコメ

ントが付きました。「オペラ例会は、徳島市民劇場史上

初」とのことです。過去のことは別にして、私が再度、観劇に復活してからの一覽を作つて見ました。三四作品です。一覽にすれば、「結構、舞台通になつたものだ。」という印象があります。昭和の時代とは異なり、思つたより音楽系は多いようです。「もう一度見たい」と思ふのは、「フレディ」と「見上げてごらん夜の星を」でしょうか？前者は熊倉一雄さんの監修で、兎に

角、面白い。後者は、戦後民主主義の象徴作品、照れ臭いほどの好印象作品です。オペラとミュージカルの区別の出来ない私は、早速、劇団（オペラシアターこんにやく座）のサイトを確認しました。「林光」という名前を見付けました。あまり知識は持ていませんがフルート奏者の「林りり子」さんは従姉です。一時期、フルートの練習をしていた頃のこと思い出したものです。

それはさておき、鄭義信さんの台本・演出が気になります。映画『月はどっちに出ている』『愛を乞うひと』『血と骨』などの脚本で名を馳せている人物です。絵空事のネズミの世界での、戦争、恋、喜び、悲しみ、絶望、希望をとおして「人間」の愚かさ、けなげさ、そして生きる姿を見せて欲しいものです。当然、始めてのオペラ、エポックメイキングにしてくれることを期待しています。